

算数科 小学校4年

単元名 小数

本時の流れ (第5時)

【復習】

線分図を使って、0.1 を確かめる。

【問題文の把握】

問題文を読み、場面を理解する。

【めあての提示と見通し】

- マス図や線分図の目盛りに注目し、何目盛り増えるかを考える。
- ◎マス図を使った児童は、線分図を、線分図を使った児童は、マス図を使って考える。

【自力解決①】

- 図や線分図を使って自分の考えをノートに書く。
- ・0マスを使って考えました。0.6 の6目盛りから、0.3 の3目盛り増えても9目盛りだから、あふれません。
- ・0.6ℓは6dℓ、0.3ℓは3dℓ、6+3=9、9dℓ=0.9ℓです。あふれません。
- ・線分図を使って考えました。0.6 から0.3目盛りを進めても、1ℓにはなりません。

【集団解決】

- それぞれの考え方で共通していることを見付ける。
- ・式 $0.6 + 0.3 = 0.9$ 答え 0.9ℓ
- ・0.6 は0.1が6こ、0.3 は0.1が3こ、あわせて、0.1が9こ
- ・0.1が何こ分かで考えると、6+3で、整数の計算と同じ。

【自力解決②】

- ジュースがペットボトルに0.6ℓ入っています。0.2ℓのみました。残りは何ℓでしょう。
- ・式 $0.6 - 0.2 = 0.4$ 答え 0.4ℓ
- ・0.6 は0.1が6こ、0.2 は0.1が2こ、引いて、0.1が4こ

【適応問題】

適応問題に取り組む

本時の目標

- 小数のたし算とひき算の意味を理解し、簡単な小数のたし算とひき算をする。

【めあて】

図や線分図を使って、0.1が何個になるか考えよう。

【問題文】

1ℓのペットボトルが2本あります。Aの方に0.6ℓ、Bの方には0.3ℓ入っています。BのジュースをAの方にうつすとあふれるでしょうか。

【めあての把握】

目盛りに注目させることで、0.1の「いくつ分」として考えることができる。整数と同じように考えればよいという見通しを持つ。

(発問)

ジュースはあふれるかどうか。考え方を図や言葉や式で書きましょう。

【自力解決①】

マス図か線分図にふえる量を書きこむことで、あふれるかどうかを判断する。そこから、考え方を言葉にして、ノートに書かせるようにする。
結論を出してから、理由づけを言葉にして表現する。

【話し合い】

マス図、線分図、どちらを使って考えていても、結局は、6+3=9をしていることに気付かせる。
0.1が9つ分で、0.9として表すことができる。そして、 $0.6 + 0.3 = 0.9$ の式を導き出す。

【自力解決②】

たし算の時と同じように、ひき算でも、まずは整数として計算し、出した答えを0.1のいくつ分として考えることで、小数を求めることができる。

【学習のまとめ】

本時で学習した筆算の手順を確認しながら、みんなで答えを合わせる。

[授業展開例へ](#)

[単元の流れへ](#)

[評価問題](#)

[HOME](#)